

県域を越えて木曽川圏域へ！「木曽三川流域自治体サミット」

取組に至る背景・事業の目的

平成22年名古屋で開催された生物多様性条約第10回締結会議（COP10）を契機に、年に数回木曽三川流域の自治体による連絡会議が持たれるようになった。名古屋市周辺での会議や催しが多い中、平成25年度は木曽において「木曽三川流域自治体サミット」を開催することとした。環境に対しての意識は、自治体のみならず住民の間にも年々高まりをみせているが、とりわけ都市部住民の環境問題に対する関心の高さには目を見張るものも見られる。こうした中で大会を開催することを良い機会としてとらえ、上流域の現状や考え方を幅広く伝え、流域全体で水源保全と環境を守るための取り組みや気運を高めていけるような場とした。そのために、木曽大会においてはこれまで以上に多くの地域に参加を広く呼び掛けるとともに、従来自治体関係者のみを対象としていた講演会や市町村長意見交換会を公開にして、長野県民はもとより流域全域の住民や関係機関に発信していくこととした。あわせて、木曽からの提言を行うことで上流域としてのリーダーシップと存在感を示して、新しい連携や具体的な交流や絆を深めるための方策を見つけ出す場としても試みる。

事業内容

- 10/16(水) 午後 第1部 木曽文化公園大ホール（関係者、一般住民等約600名参加）
- ・基調講演 講師 畠山重篤氏（気仙沼市在住、牡蠣養殖家、「NPO法人 森は海の恋人」理事長）
 - ・木曽川を通じた交流事業事例発表（木曽地域と愛知中部水道企業団との上下流域にかかる森林整備基金や交流活動、NPO団体と木曽地域との交流事例をトーク形式で発表）
 - ・流域18自治体首長による意見交換会
 - ・活動事例やNPO、関係団体の事例展示（13団体参加）
- 第2部 木曽町 木曽駒高原ホテル（約140名参加、参加費徴収）
- ・交流会（自治体首長ほか自治体推薦のNPO、民間企業なども参加）
- 10/17(木) 午前・希望者対象に、木曽川源流を巡る散策などを実施。（環境保全活動団体による案内、52名参加）



【自治体首長による意見交換会】

長野県内はもとより、木曽川にかかる流域圏全体を対象としてとらえて、上流からの考えや提言を発信し訴えかけた。各自治体首長が集まる公の場での提言や意見交換が、各自治体や報道を通じて発信されたことで、上流域の保全活動や森林整備、環境保全活動などへの理解が深まることが予測される。上流域と下流域の交流の進展により、新たな文化事業や経済活動などに発展していく可能性についても模索した。また、単なる自治体同士の交流にとどまらず、住民レベルやNPO、民間企業、関係機関へも呼びかけた結果、幅広い分野からの参加を得たことや中部地区でも大きく報道されたことで運動が大きな輪として発展することが期待される。実行委員会には、木曽郡内6町村と木曽広域連合、長野県が加わって協働で実施した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

前日から当日朝にかけて台風に見舞われ、講師の移動を含め運営に予定外の苦労も出た。今後も機会あるごとに交流や上流域からの発信を続けていくと共に、26年度では下流域住民のアンケート調査を実施して意識やニーズの把握を試みたり、サミットでの提言をふまえて木の机や椅子など木曽の木製品発信事業を展開中である。

【選定のポイント】

新聞、テレビによる報道に加え、連合長等による下流域の大企業への事前PRにも郡内が一体となって取り組んだことで、計画を上回る4県38自治体500人の幅広い参加につながった。防災や経済交流等も「木曽からの提言」として、下流域との共通認識化し、上下流交流の次の段階の方向性を明確にした点で、発展性に優れている。

団体名 木曽広域連合	事業タイプ ソフト
連絡先 0264-23-1050	総事業費 3,737,385円
ホームページ、メールアドレス http://www.kisoji.com	支援金額 2,011,000円